



アクロバット 4.0 でここまでできる

PDF 文書 100%活用術

塩田紳二



ウェブページに置かれているPDFファイルをダウンロードして、アクロバットリーダーで眺めてみたことのある人は多いだろう。しかし、PDFは閲覧のためだけのファイル形式ではない。注釈、校正、承認といった文書による共同作業を行うためのプラットフォームでもあるのだ。最新のアクロバット4.0を使ってPDFファイルの力を100%引き出す技を紹介しよう。

今こそPDFを活用しよう

ワードなどのワープロ文書が添付された電子メールを受け取ることがある。しかし、その文書を開くためのワープロソフトを持っていないために、せっかく送られた文書が読めない場合もある。また、ここ最近マクロ機能を悪用したウイルスが流行しているため、ワードやエクセルファイルのやり取りには不安が大きい。一方で、社内や取引先との間でやり取りする文書には整った書式を使いたいという場面も多いことは確かだ。そんなときにおすすめしたいのがこの記事で紹介するファイル形式PDFの活用だ。

PDF (Portable Document Format) は、インストールしているOSやフォントなどの環境に依存せずに表示ができるファイル形式だ。PDFファイルを読むにはアドビ社が無償で配布している「アクロバットリーダー」だけあればよく、ワード

の文書をPDFファイルに変換すれば、これを表示するのに元のファイルを作成したワードは必要なくなり、マクロウイルスの心配もない。ワープロや表計算といったビジネスソフトやグラフィックソフト、DTPソフトなど、およそ印刷が行えるソフトの出力はすべてPDFファイルに変換できる。

PDFファイルを作成するには、アドビ社が販売している「アクロバット」が必要になる。アクロバットを使えば、ワープロなどのアプリケーション用のファイルをPDFファイルに変換して配布できる。それだけでなく、文書内のほかのページやインターネット上のウェブページへのリンク、動画や音声埋め込むこともできる。スクリプト機能を使えば、ちょっとした計算処理を行うPDFファイルになる。さらに文書にメモやラインマーカーのような書き込みもできるので、1つの文書をグループで修正するような作業までできる。

アドビアクロバット 4.0

www.adobe.co.jp/product/acrobat/
価格 オープンプライス (店頭価格: 約30,000円)

動作環境

ウィンドウズ版

CPU	486またはペンティアムベースのCPU
OS	ウィンドウズ95/98/NT4.0
ハードディスク	100Mバイトの空き容量
メモリー	32Mバイト以上 (NT4.0では64Mバイト以上)

マッキントッシュ版

CPU	PowerPC
OS	漢字Talk7.5.3以降
メモリー	32Mバイト以上
ハードディスク	100Mバイト以上の空き容量

アドビアクロバットリーダー 4.0

www.adobe.co.jp/product/acrobat/readstep2.html

価格 無償配布

動作環境

ウィンドウズ版

CPU	486またはペンティアムベースのCPU
OS	ウィンドウズ95/98/NT4.0
ハードディスク	15Mバイトの空き容量
メモリー	16Mバイト以上 (NT4.0では32Mバイト以上)

マッキントッシュ版

CPU	PowerPC
OS	漢字Talk7.5.3以降
ハードディスク	15Mバイトの空き容量
メモリー	4.5Mバイト以上

Acrobat 4.0

どんな環境でも再現できる

PDFファイルは、さまざまな環境で、文書を同じように表示したり印刷したりできるように考慮されたファイル形式だ。パソコンにはさまざまなアプリケーションがあり、そのファイル形式も数多くあるが、基本的には作成したアプリケーションだけが文書（データ）ファイルの編集と表示ができる。PDFファイルはアプリケーションの印刷出力を使って文書ファイルのイメージを取り込んだものなので、元になったファイルがどんな種類

のものでもアcrobatやアcrobatリーダーで表示できる。

パソコンにはさまざまな環境があり、ディスプレイやプリンターの解像度の違いや、インストールされているフォントの違いなどがあり、同じアプリケーションでも同じような表示を行うのは簡単ではない。

PDFは、PostScriptというページ記述言語（プリンターの出力用命令の一種）の技術を使い、電子的な「印刷用紙」を実現したものだ。アプリケーションの印刷出力を加工して、フォントの

情報などとともにファイルの中に入れてある。表示や印刷を行う場合には、出力先の解像度に合わせてサイズを変更し、さらにシステムにないフォントは、よく似たフォントを作り出して出力することで、元の文書と違いが出ないようにしている。このために、どの環境へ持っていてもフォントやレイアウトの再現性が高い。つまり、インターネットで文書をやり取りするような用途には最適なのだ。

ワードやエクセルからPDFファイルを作るには

それではさっそくアcrobatを使ってPDFファイルを作ってみよう。ウィンドウズでワード97と98、エクセル97、パワーポイント97の文書からPDFファイルを作る場合は、デスクトップに置かれているアcrobatのアイコンに文書ファイルをドラッグアンドドロップするのが最も簡単な方法だ。自動的にアcrobatが起動して、文書ファイルがPDFに変換されて表示される。これを保存すればPDFファイルが作成される。

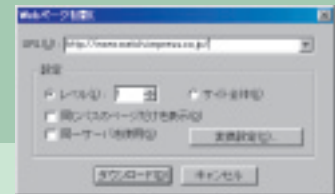
アcrobatを起動してから「ファイル」メニュー「開く」を選んでも、同様にワード、エクセル、パワーポイントのファイルをPDFに変換で

きる。

ただしこの方法は、ワード、エクセル、パワーポイントのバージョンが95や2000の場合は動作しない。この方法が使えないアプリケーションの場合やマッキントッシュの場合は、次ページの「いろいろなアプリケーションからPDFを作るには」を参照してほしい。

また、アcrobatは指定されたURLのウェブページを直接読み込んでPDFに変換する機能も持っている。ウェブページをPDFにすると、テキストだけでなく画像もダウンロードされて埋め込まれ、ページ内のリンクも正しく反映されるので、WWWブラウザ上で見るページとほとんど変わらないものになる。

ウェブページからPDFファイルを作成

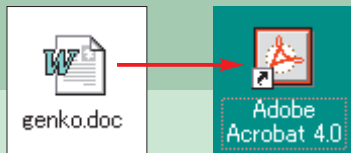


アcrobatの「ファイル」メニュー「Webページを開く」を選び、URLを入力して「ダウンロード」ボタンを押す。

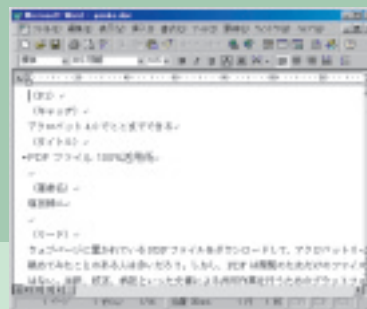


HTMLファイルや画像ファイルがダウンロードされてPDFに変換される。

ワード文書からPDFファイルを作成



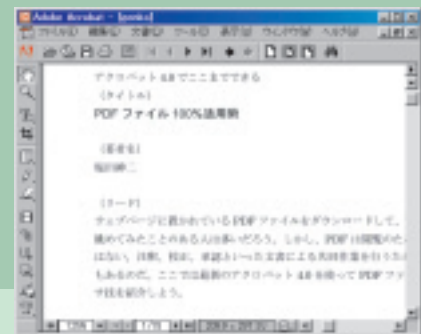
1 ワード文書を「Adobe Acrobat 4.0」のアイコンにドラッグアンドドロップする。



3 ワードが一瞬起動する。



2 アcrobatが起動し、ファイルの変換が始まる。



4 変換が終わるとアcrobatでPDFが表示されるので、「ファイル」メニュー「名前を付けて保存」で保存する。

いろいろなアプリケーションから PDFを作るには

さまざまなアプリケーション用のファイルからPDFファイルを作るには、そのアプリケーションの印刷機能を利用して「Adobe PDF Writer」または「Adobe Distiller」という仮想的なプリンターに出力する。この際にPDFは紙に印刷されるわけではなく、ファイルとして保存される。

文字が主体の文書の場合には、PDF Writerを選ぶ。グラフィックを多用した複雑なレイアウトの文書の場合には、Distillerを選ぶときれいなPDFファイルが作成できる。

ウィンドウズでは、アプリケーションの「印刷」メニューを選んで表示される画面で「プリンタ名」を選べばいい。アプリケーションによっては、「印刷」メニューを選ぶ前にプリンターを選択しておく必要がある。

マッキントッシュでは、PDF Writerを使いたい場合はセレクトで「PDF Writer」を選択し、Distillerを使いたい場合はセレクトで「AdobePS」を選択してからアプリケーションで印刷する。

Distillerは、ウィンドウズではスタートメニューから「Adobe Acrobat 4.0」「Acrobat Distiller 4.0」を選べば画像の品質などの細かい設定ができる。マッキントッシュでは、アクロバットをインストールしたフォルダーの下にある「Distiller」フォルダーの下の「Acrobat Distiller 4.0」を開く。

ウィンドウズの場合



アプリケーションの「印刷」ダイアログで「プリンタ名」に「Adobe PDF Writer」か「Adobe Distiller」を選択する。PDF Writerでは、印刷が開始されるとファイル名を指定するダイアログが表示される。Distillerでは、アクロバットをインストールしたフォルダーの下の「PDF Output」フォルダーにPDFファイルが作成される。

マッキントッシュでPDFWriterを使う場合



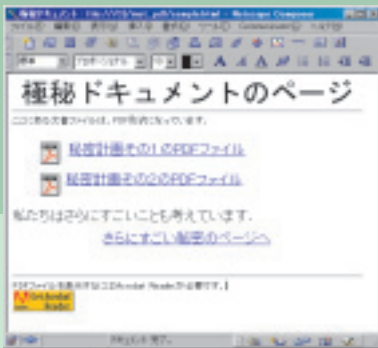
セレクトで「Acrobat PDF Writer」を選んで閉じてから、アプリケーションで印刷する。印刷するとPDFファイル名を指定するダイアログが開く。

マッキントッシュでDistillerを使う場合

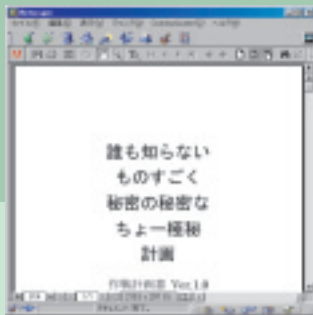


セレクトで「AdobePS」を選んで閉じてから、アプリケーションで印刷する。印刷の際には「出力先」を「ファイル」に、「プリンタ」を「Acrobat PDF」にする。印刷するとPS (PostScript) ファイル名を指定するダイアログが開く。PSファイルを保存した場所と同じ場所にPDFファイルが作成される。

ホームページで公開する



リンク先にPDFファイルが指定してあるウェブページを作る。



アクロバットリーダーに含まれているプラグインがインストールされていると、WWWブラウザのページ内にPDFファイルが表示される。

電子メールで送信する



PDFファイルを電子メールで送る場合は、通常のファイルのように添付する。アクロバットリーダーのURLを本文で紹介しておくといい。

PDFファイルを読んでもらうには

PDFファイルを表示するには、アクロバットリーダーが必要だ。アクロバットリーダーは無償で配布されており、アドビ社のサイトからダウンロードできる。

ウェブページでPDFファイルを公開する場合には、アドビ社のダウンロードページへのリンクを作っておけば、アクロバットリーダーを持っていない人には便利だろう。アドビのサイトにある、「Get Acrobat Reader」ボタンを使って、ダウンロードページへのリンクを作ればいい。ボタンを使う際の詳しいリールはホームページに記載してある **Jump01**。

電子メールでPDFファイルを送る場合、そのまま添付ファイルとして送り、本文にアクロバットリーダーのダウンロードページのURLを書いておくと親切だ **Jump02**。

Jump01 www.adobe.co.jp/product/acrobat/distribute.html

Jump02 www.adobe.co.jp/product/acrobat/readstep.html

PDFファイルを読みやすくするには

ワード文書などをそのままPDFファイルに変換しただけでは、レイアウトやフォントはきれいに再現できるかもしれないが、PDFの力を100%活かすことはできない。しおりを作成して文書中の好きな項目へジャンプできるような目次を作ったり、サムネイル（縮小画像）を付けてページのイメージから読みたい部分を探せるようにしたりすれば、効率よく読める文書になる。

PDFファイルにはHTMLのように文書中にリンクを作成することもできる。あるキーワードをクリックすると別のページの解説にジャンプするような仕掛けを作れば、さらに閲覧しやすい文書になる。同じ文書内だけでなく、ほかのPDFファイルやインターネット上のウェブページへのリンクを作成することも可能だ。

PDFファイルを加工するには、アクロバットリーダーではなくアクロバットが必要だ。アクロバットはレイアウトに優れたPDFファイルを作成するだけでなく、このように機能を持たせた文書を作るためのソフトなのだ。

サムネイルの作成

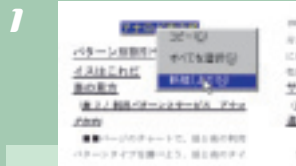


サムネイルを作成するには、「サムネイルパレット」を表示させ、右クリック（マッキントッシュではCtrlキー＋クリック）のメニューから「すべてのサムネイルを作成」を選択する。

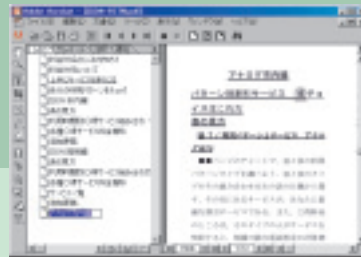


ページイメージを縮小したサムネイルを見れば、図版などが探しやすくなる。サムネイルをダブルクリックすると、そのページにジャンプする。

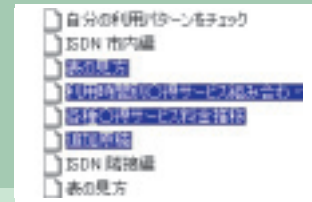
しおりの作成



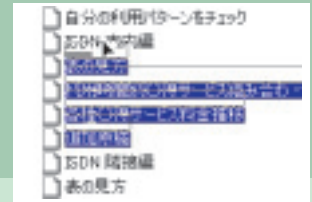
しおりを作成するには、「テキスト選択ツール」で本文中の見出しなどを選択し、右クリック（マッキントッシュではCtrlキー＋クリック）のメニューから「新規しおり」を選択する



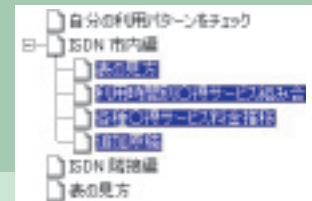
新しいしおりが追加される。選択したテキストがしおりの名前になるが、名前を変更することもできる。



しおりは、本文の見出し関係のように階層構造を付けることができる。最初にレベルを変更したい部分を選択する。Shiftキーを押しながら選択すると、複数のしおりを選択できる。

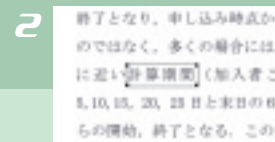


選択部分をドラッグするとマウスのカーソルの形が変わる。上のレベルになるしおりの名前にカーソルを移動する。カーソルの形が小さな三角に変わる。

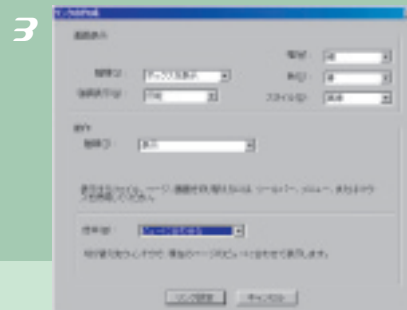


ここでマウスボタンを放すとレベルが変更される。

リンクの作成



文書内のリンクを作成するには、「リンクツール」を選択して本文中の文字をドラッグアンドドロップで囲む。



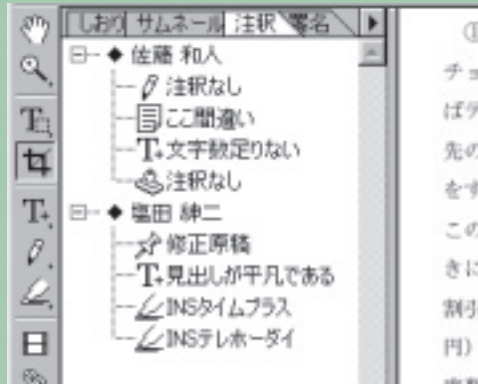
ダイアログが表示される。上部の「種類」や「強調表示」、「幅」などでリンクの囲みの表示方法を設定する。中央の「種類」は「表示」を選択する。そのままアクロバットのウィンドウに移ってリンク先のページを表示させ、ダイアログに戻って「リンク設定」ボタンを押す。中央の「種類」で「World Wide Web リンク」を選択すると、URLを指定してWWW上のHTMLファイルなどのリンクを設定することもできる。

PDFファイルで共同作業を行うには

複数のメンバーで、1つのPDFファイルを使った共同作業を行う場合には、アクロバットの注釈機能が役に立つ。メモやラインマーカー、スタンプなどの印や注釈をあとから追加することができるので、文書の回覧だけでなく、文書をグループで校正したりチェックしたりする場合に活用できる。

スタンプなどの印にも注釈を持たせることができ、注釈は記入者ごとにまとめられて注釈パレットにツリー表示される。注釈パレットをダブルクリックすれば、文書内の注釈位置に移動できるので便利だ。スタンプなどの注釈オブジェクトをダブルクリックすると、そこに付けられたメモが表示される（メモを表示させるだけなら、アクロバットリーダーでも可能）。

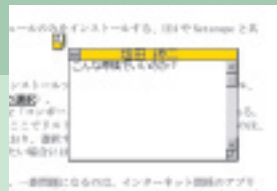
作成された文書に貼り付ける形で注釈を追加するだけでなく、「TouchUp テキストツール」でテキスト自体を削除したり新しいテキストを挿入したりすることも可能だ。ただし、PDF文書中でフォントがシステムにインストールされていないとテキストを挿入できない。



注釈パレット

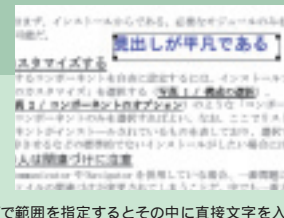


ノートツール



「ノートツール」を選び、本文をクリックするとそこにノートアイコンが配置されてノートウィンドウが開くので、注釈を入力して閉じる。閲覧する人がノートアイコンをダブルクリックすると、ノートウィンドウが開いて注釈が表示される。

テキストツール



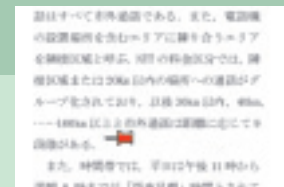
「テキストツール」を選び、マウスのドラッグで範囲を指定するとその中に直接文字を入力できる。入力したあとで右クリック（マッキントッシュではCtrlキー+クリック）メニューから「プロパティ」を選ぶと、文字の色やサイズ、フォントを指定できる。

スタンプツール



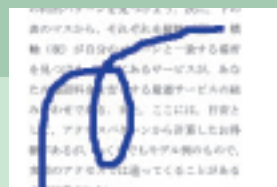
「スタンプツール」を選択すると、「承認済」などのスタンプをページに押すことができる。押したスタンプを右クリック（マッキントッシュではCtrlキー+クリック）して「プロパティ」を選ぶと、「却下」や「極秘」などのスタンプの種類を選べる。

ファイル添付ツール



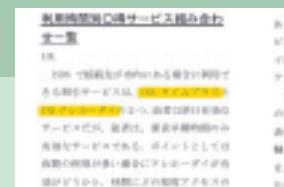
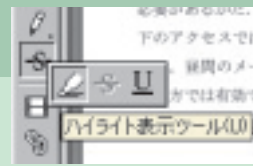
「ファイル添付ツール」を選んで本文をクリックすると、ファイルを選択するダイアログが開くので、そこで添付したいファイルを選べる。ちょっと長い文章などを注釈として付けたい場合に便利だ。

鉛筆ツール



「鉛筆ツール」を選べば、本文の上にフリーハンドの図形を描くことができる。この図形にも簡単な注釈を付けることができる。図形を描くツールには、このほかに「四角形ツール」、「楕円ツール」、「直線ツール」がある。

ハイライト表示ツール



「ハイライト表示ツール」を選んで本文中の文字を選択すると、ラインマーカーのように文字を強調表示できる。同種のツールには、「取り消し線ツール」と「下線ツール」がある。

PDFファイルで帳票を作成するには

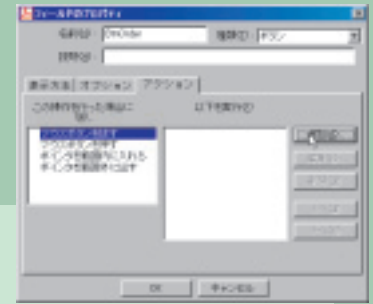
最後にPDFのフォーム機能を使って簡単な帳票を作る方法を紹介しよう。アクロバットを使うと、PDFファイルの中にウェブページにあるような入力フォームを置くことができる。アクロバットリーダーを使えば、入力した結果を印刷して書類を作成できるし、アクロバットがあれば、入力した結果をファイルに保存して紙を使わずに書類をやり取りすることもできる。

まず、ページ全体のレイアウト（文字や枠など）をあらかじめワープロなどで作っておく。そのファイルをPDFファイルに変換したら、アクロ

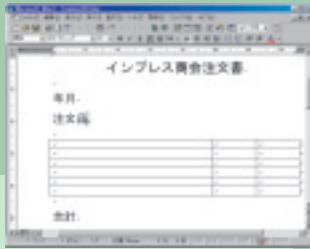
バットでテキスト入力欄やリストボックス、ボタンなどを配置する。フォームの部品の間では簡単な計算を指定でき、さらにJavaScriptを使って複雑な処理を行わせることもできる。

フォームにデータを入力して「FDF」ファイルに書き出せば、1件の帳票データファイルとなる。このファイルをアクロバットで開くと、記入したときのフォームページが自動的に再現される。

PDFフォームは、データを入力して保存したり印刷したりするだけでなく、HTMLのフォームと同じようにCGIプログラムに対してデータを送信することもできる。



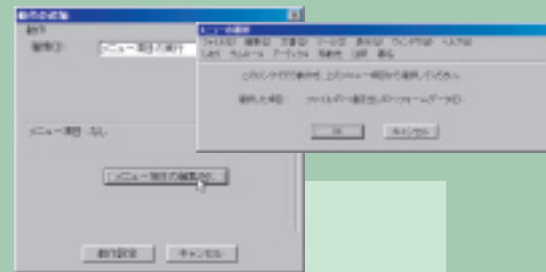
5 「注文」ボタンを押すと、記入の終わったフォームデータを保存するようしてみよう。まず、ボタンを右クリック（マウスイッチュではCtrlキー+クリック）して「プロパティ」を選び、「アクション」タブで「マウスボタンを放す」を選択して「追加」ボタンを押す。



1 PDF帳票の元になるページイメージをワープロなどであらかじめ作成しておく。



4 これを繰り返して必要なフォーム部品を配置していく。ここでは、「うどん」や「ラーメン」などを選択させる部品を「コンボボックス」に、単価と合計の欄を「テキスト」にし、最後に「注文」ボタンを作成した。コンボボックスでは選択項目を追加する際に「書き出し値」に商品の単価を入れておいた。



6 「種類」から「メニュー項目の実行」を選び、「メニュー項目の編集」ボタンを押す。「メニューの選択」ダイアログで「ファイル」メニューから「書き出し」「フォームデータ」を選んで「OK」ボタンを押す。「種類」から「フォームの送信」を選ぶとウェブ上のCGIプログラムにデータを送信することもできる。



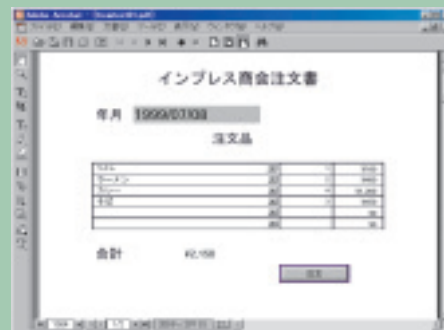
2 作成したファイルをPDFファイルに変換し、アクロバットで開く。



7 「うどん」などの注文数を入力すると、合計金額が自動的に入力されるようしてみよう。合計金額を表示させたいフォーム部品（テキスト）を右クリック（マウスイッチュではCtrlキー+クリック）して「プロパティ」を選び、「計算」タブで「次のフィールドの」をチェックする。「積」を選んで「選択」ボタンを押し、掛け算させる部品の名前を選択して「OK」を押すだけでいい。



3 「フォームツール」を選択し、ページの上でフォーム部品（フィールド）の位置とサイズをマウスのドラッグで指定する。「フィールドのプロパティ」ダイアログが開くので、「名前」を入力し、「種類」を選ぶ。たとえばテキスト入力欄なら「テキスト」を選ぶ。「表示方法」タブでは、部品の色やフォントを選択できる。



8 フォームが完成したらPDFファイルを保存し、実際に値を入れて「注文」ボタンを押してみる。保存したFDFファイルをアクロバットで開くことができれば完成だ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp